

第3回八千代市地域ケア会議記録

開催日	令和1年11月25日		開催時間	19：30～21：30		場所	市役所別館2階第1.2会議室		
公開又は非公開の別		公開	傍聴人定員数		50名		傍聴人数		34名
参加者 (敬称略)	事例提供者	氏名	吉田 真理子	所属	八千代市村上地域包括支援センター	職種	社会福祉士		事例1
		氏名	山田 英二	所属	八千代市村上地域包括支援センター	職種	社会福祉士		事例2
	事例に関わる介護サービス事業者	氏名	柿崎 勉	所属	リハプライド・勝田台	職種	施設長		事例2
		氏名		所属		職種			
		氏名		所属		職種			
		氏名		所属		職種			
	第2層生活支援コーディネーター	氏名	中村 清子	所属	八千代市村上地域包括支援センター	職種	社会福祉士		事例1. 2
	助言者	氏名	得本 鋭也	所属	八千代市医師会	職種	医師		
		氏名	鷺 二郎	所属	八千代市歯科医師会	職種	歯科医師		
		氏名	小川 智弘	所属	八千代市薬剤師会	職種	薬剤師		
		氏名	瀧田 洋子	所属	八千代市訪問看護師会	職種	看護師		
		氏名	薄 直宏	所属	千葉県理学療法士会	職種	理学療法士		
		氏名	白濱 徳之	所属	八千代市介護サービス事業者協議会	職種	主任介護支援専門員		
		氏名	鈴木 孝将	所属	八千代市介護サービス事業者協議会	職種	生活相談員・施設介護支援専門員		
		氏名	八巻 裕美	所属	八千代市社会福祉協議会	職種	第一層生活支援コーディネーター		
	事務局	氏名	齋田 忠徳	所属	長寿支援課	職種	課長		
		氏名	若林 栄子	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	所長		
		氏名	早川 哲弘	所属	長寿支援課	職種	主査		
		氏名	我孫子 香代子	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	主任保健師		
		氏名	石橋 さなえ	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	主任保健師		
		氏名	関口 直紀	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	主任介護支援専門員		
		氏名	小沼 真琴	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	社会福祉士		
		氏名	鈴木 翔平	所属	長寿支援課地域包括支援センター	職種	保健師		
傍聴人	市民		0	名	介護支援専門員	13	名	介護サービス従事者	0名
	医療従事者		2	名	地域包括支援センター職員	19	名	合計	34名

事例1	事例概要	地区	村上	年齢	92	性別	女性	世帯類型	その他	
		要介護度	要支援2	認定期間	令和1年8月1日	～	令和4年7月31日			
		家族構成	同居：次女夫婦 別居：長女夫婦			キーパーソン	次女			
		診断名	両変形性膝関節症	高血圧症・高脂血症	不整脈					
		サービス内容	介護予防福祉用具貸与		通所介護(通所型サービス)					
	検討テーマ	筋力低下で転倒が多くなってきた高齢者の転倒予防対策と本人に受け入れやすいサービスについて								
	内容	転倒の回数が増えているため、訪問看護で筋力強化を提案したが、サービス担当者会議直前で拒否。新しいことは面倒で、できれば自宅で何もせずのんびり暮らしたいというのが理由であるが、筋力低下がみられる中、このままいくと現状維持ができなくなる可能性があり、支援内容について検討したい。								
	助言内容	内容								発言者
		ベンザリンは長時間作用するため、転倒の中核になっているのではないかと考えられる。特に5mg×2錠なので、成人男性が飲んでもしっかり眠くなってしまう量である。								小川
		メインテートといって血圧を下げる薬が処方されていて、この薬は起立性低血圧を起こしやすい。トイレで前のめりになって倒れたことを考えると、薬が原因で倒れた可能性もある。本人が効き目を感じていないなら、薬の数を減らすこともできるといいと思う。								得本
高齢な方なので、介入するにあたり、何年か先に利益があるというより、即効性のあるもの、それから持続性のあるものを提示する。								得本		
本人に眠りに対する希望を聞くのが大事。ベンザリンは筋力低下も転倒も起こす可能性があり、記憶力低下も考えられる。そもそもポリファーマシー(薬がたくさん処方されている状態)であるため、高齢者に6剤以上の処方があると有害事象が起きやすいので、お薬を減らしていく必要がある。血圧の薬は3つ以上処方されていると転倒のリスクが上がる。Bブロックとカルシウム拮抗薬は、うつ病を起こす場合もあるので、この方のやる気・生きがいを損なっていることも否めない。今までよかった薬が、今まで以上に効いてしまうことを考慮する。薬をだしている薬局に相談してもらおう、もしくは、薬剤師会でほかの薬局が訪問をするという仕組みをパイロット試験として行っているのを利用してはどうか。								小川		
基本チェックリストでうつ病の項目が5点であり、うつ病の可能性もある。精神科の先生にコンサルティングをお願いするとよい。デイサービス利用などに積極的になれないなら、骨粗鬆を直したり、プロテクターを利用して、転んでも折れないようにする。								得本		
転んでも大事に至らない生活の環境を整えることが大事。保護材の入った帽子や下着の利用する。転んだとき助けてもらえないことが心配なら、セコムなどの民間の通報サービスを利用。主介護者が一人でも起こせるようにスライディングシートを利用しつつ、電動ベッドなどの昇降させてくれるようなものを用意して、倒れたがこまでくれば立てるといふ仕組みと保護材を併用する。認定調査で寝返りができないと回答しているので、ベッドもレンタルできるといふ。								白濱		
週1回むせることがあるということがあると書かれているので、嚥下の機能が落ちているのかもしれない。特に会話がなくなると口の機能が低下しやすいので、この方の楽しみの一つにおしゃべりということがあるので、少し外と接触して会話をし、口を動かすことは重要だと思う。								鷲		
内服の調整をして昼間起きていられたら、夜のトイレ頻回というのもなくなるといふ。夜眠ることができれば昼間ににうとうとすることもなくなり面倒と思うこともなくなるのではないかと。訪問リハやデイの数を増やすこともできるといふ。								瀧田		
お風呂が2階にあっても上り下りができるので、本当に筋力の低下があるのか疑問。まず薬の調整をもらい、それでも転倒があるようなら、下肢の筋力や足の裏の感覚を評価。プロテクターもよいが、排泄時難しいので、お薬の調整後に使用を検討してもよいのではないかと。								薄		
地域課題	デイサービスの導入はマッサージがポイントになったようである。運動という言葉を出すとハードルが高く、気持ちが前に向きにくい。まずは、デイサービスで日中起きて過ごすことを目的とする。マッサージまでがゴールになることを事業所と検討。								鈴木	
	耳が遠くなっていることや姉妹がなくなったことが、気持ちの面に影響している。まず本人の希望があれば耳の聞こえを改善できるようにする。ききかきボランティアで今までの生活を聞いてノートに記して本人に返すということをしている。自分も役に立つということを感じられるボランティア活動を紹介できるといふ。								八巻	
	90歳を超えた方に対しての運動・機能訓練はハードルが高く、不活発な生活になりがちである。								鈴木	
	耳の聞こえが悪くなると、抑うつ的ななど精神面に影響するため、コミュニケーション支援が必要。								八巻	
感想等	サロンがあるが、自分で通えないと参加は難しい。訪問による社会参加の場づくりが必要。								中村	
	薬の調整までの視点がなかった。マッサージで足は軽くなっているのにリハビリに乗ってこないというのも、本人の心情に添えられていなかったかもしれない。次女は協力的なので、事業所と一緒に考えていきたい。訪問すると引き留められることもあるので、お話という部分にも着目していきたいと思う。これを機会に支援経過を振り返りたい。								吉田	
	いろんな方と話をしたいという方だが、サロンも遠く、歩いていけない方もいる。行ってお話をする担い手も必要かと思った。								中村	

事例概要	地区	上高野（村上圏域）	年齢	72	性別	女性	世帯類型	独居	
	要介護度	要支援2	認定期間	令和1年11月1日	～	令和4年10月31日			
	家族構成	本人			キーパーソン	長女（県外）			
	診断名	高血圧症・腰痛症	高コレステロール・アレルギー性鼻炎	多発性膝鞘炎・骨粗しょう症					
	サービス内容	通所介護（通所型サービス）	福祉用具貸与（多点杖）						
検討テーマ	独居で自立した生活が継続できるよう、介護予防・自立支援の取り組みについて、ほかの角度からの視点や、具体的対策について助言をいただきたい。								
内容	8年ほど前に仕事を退職し、体重が20kg以上増加。歩行時に息切れをするようになり、活動量や体力の低下、膝痛など引き起こし、悪循環となっている。自立意欲は高く、人に頼らずに自分の力で生活したい意思を持ち、デイサービスでの運動や買い物などの歩行に取り組みながら過ごしているもの、現状では、運動機能の低下により、自立した生活の継続が困難になる恐れが高い状態であると考えられ、介護予防・自立支援に向けた対策が必要となる。 また、本人は、社会的である一方、周りに合わせた返答をしてしまい、プレッシャーやその反動などにより、気分の浮き沈みも多く見られるため、介護予防に対する改善方法の提案にも配慮が必要となる。成育歴、生活歴で喪失体験の多い方、経済的に困窮しているため、家族に遠慮している。								
事例2	助言内容	内容						発言者	
		BMIが22を超えると、心臓や脳の病気が増え、30では更にリスクが増える。BMIが35を超えると覚醒作用のある薬剤を中心とした、肥満症の治療の適用となる。それでも治療実績が上がらないと、外科手術を行う可能性がある。肥満の方への対応方法として考慮してもらいたい。腎機能が悪くなければ、水分摂取は悪くない。						得本	
		咀嚼が問題ないと思っていることが問題がある。早食いであり、食べているものの質が良くない。まず噛む場面を増やし、噛み合わせのバランスを取ることで、身体的な能力も変わることがあるため、咀嚼の部分の介入をした方がよい。また、近隣に昔からの仲間が居るため、積極的に交流を図れる環境を作るのが良い。						鷺	
		1事例目よりも2事例目の方が、薬剤師としては難しい。この方もポリファーマシーと言いつつ薬剤を多用している方のため、減らした方がよい。しかし、ご本人が抵抗するのは目に見える。一般論ではあるが、医療費（自己負担）が掛からない方は、不要な薬剤が増える傾向にある。眩暈の薬を長期で飲んでいるというのは、改善すべき点である。服薬中の睡眠導入剤は、不眠の治療ではなく、眠れるようにするものであるため、治療は考えなければならない。また、痛みの薬は効いているのかどうか整形外科で評価してもらった方がよい。医療券の発行について後ろめたさがあるので、その気持ちを変えるアプローチが必要。						小川	
		痛みのコントロールが不良のため、長時間立って調理などが出来ず、簡単に済ませられる食品になっている可能性がある。デイサービスが週2回になることで、食事の改善が図れたら望ましい。ダイエットは必要。						瀧田	
		出来ていることを積み重ねていくことは非常に重要。トレーニングができたことや食事を減らせたことを評価する。また、体重を減らすための料理は何かあるのか本人と一緒に考えるとよい。また、整形外科を受診していないので、整形外科を受診し、膝の評価してもらい、現在の状態で動いても大丈夫という太鼓判を押してもらった方が、今後運動を続けていく上でも大事。歩行器の提案は良いのではないかと。自転車を押しての移動は転倒のリスクがあり、転倒すると起こせなくなり、更に外出が困難になる可能性がある。						薄	
		体重の増加と他者に気を使ったり、近隣住民との関係などのストレスの因果関係があるのではないかと考えている。成育歴などから、ストレスの要因を紐解ける可能性がある。デイサービスの送迎時、本人への声掛けなどで緊張を解す取組みをしているようだが、非常に良いと思う。デイサービス利用時の気分の落ち込みや緊張を盛り上げるのは、半分くらい送迎車内で決まるのではないかと考えている。この方は好きな歌手がいるため、良い関係を作るには担当する職員が少しでもその歌手の知識を得て、会話のきっかけになり、実際のサービスに入る前の気持ちを盛り上げることに繋がる。						鈴木	
		「係に何もしてあげられない」という発言や基本チェックリストで「自分が役に立つ人間だと思えない」項目へのチェックがある一方で、興味関心チェックシートでのボランティアや地域活動への興味へのチェックがある。ある地域密着型デイサービス推進会議にて、利用者が作った製作物をデイサービスの前に置いておいたところ、近隣住民が持って帰り、地域の方からのお礼の手紙が置いてあったというエピソードがある。精神的な負担にならない程度に、作ったものを例えば包括支援センターやデイサービスの前に置いたり、誰かにあげるなどして、意欲につながるのと良い。自費で特殊寝台の導入を検討しているようだが、認定調査にて「寝返りできない」となっているため、経済的に困窮している方であることを考慮して、介護保険で借りた方がよい。						白濱	
		興味関心チェックシートにて、ボランティア活動に「興味がある」とチェックされているため、いろいろな仕事をしていたということもあるため、子どもの居場所づくりや生活困窮の方々の日中活動の際の昼食づくりのボランティアも募集しているダイエットして身体的に余裕が出来たら、受け入れすることが可能。畑仕事にも「してみたい」にチェックがあるため、畑仕事に関するボランティアの募集もある。雑巾が縫えたり、編み物をしているということもあるため、これからの季節、保育園で嘔吐物の処理をする際に雑巾の需要がある。外に出られなくても社会貢献できることがあるため、情報提供してもらいたい。						八巻	
		地域課題	地域の中に社会参加活動はあったとしても、他の方と何かを行うことに対し抵抗感を感じる方がいるため、個々のニーズとマッチング出来るような働きかけが必要。						中村
感想等	自分の中で、本人像を決めつけていた部分もあるかも知れないため、助言を受けて本人の可能性が広がった。作品の活用方法など、いろいろな提案をすることで意欲の向上につながると感じた。本人像を決めつけずに提案していきたい。体重に関しては難しいが、治療や整形外科の治療、運動量など調整しながら、本人と自立支援を図りたい。助言でもあったが、食事量を少なくできたことや、賄いの仕事をしていたからこそ減量メニューができることをポジティブに捉えられるような働きかけができるようにしたい。						山田		
	本人の達成感を感じたり、社会貢献につながるようなサービスを考え、実施したい。						柿崎		
	生活支援コーディネーターとしては、大きな地域としての取組みの視点で考えるが、この方のように他の方と何かを行うことにプレッシャーを感じてしまうため、コーディネーターが得た情報の中で、個人的にマッチングできるような支援も必要と感じた。ビーズアクセサリーや野菜を作っているのであれば、直売所を設けるなどアイデアを出して、本人の持っている能力を引き出した。						中村		